

SSRI

ちよつと一言

Give me a break !

## 米軍のCHAMPは、北朝鮮核ミサイルの盲目化・無効化の切り札になるか？

樋口 讓次

北朝鮮が米本土に到達できる核兵器の開発を進展させる中、米ニューメキシコ州にあるカートランド空軍基地の研究所で、その対抗措置となり得る「CHAMP」と呼ばれる兵器の開発が進んでいる。

「CHAMP」は、「Counter-Electronics High-Power Microwave Advanced Missile Project」の頭文字をとって作られた略語で、電子レンジなどに使われるマイクロ波（電磁波、EMP）を利用したもの。

この CHAMP を巡航ミサイルに搭載し、敵上空を低空で飛行して断続的に強力な EMP を放出し敵の電子制御システムを妨害・破壊するもので、例えば、敵が核ミサイルを発射する前に、そのシステムの盲目化・無効化を狙った兵器である。さしずめ、CHAMP の日本語呼称は、「EMP 攻撃用 CM」あるいは「EMP 攻撃飛翔体」となるだろうか。

米空軍は 2012 年、ユタ州にある実験場で CHAMP の実験を行なったが、CHAMP の開発を主導するメアリー・ロビンソン氏は、この実験で「想定通りの結果が出た」ことを明らかにし、どのシステムに障害が起きるかを「100%の精度で確認できた」と話している。

また、米空軍の元幹部によると、CHAMP は北朝鮮に対して有効かもしれないし、これを使えば敵側の人命を失うことなく攻撃を実行できる可能性があると述べている。

CHAMP はまだ運用段階には入っておらず、いつ実戦配備されるのかについて米空軍は明らかにしていないが、もしも危機的な状況になった場合、「CHAMP は数日で配備できる」と元幹部は自信の程をのぞかせる。

米軍は、このほかに、相手国の電力供給網を停止させ、人的被害を出さずに戦争遂行能力を奪う通常爆弾としての「ブラックアウト（停電）爆弾」を先立って開発し、湾岸戦争中の 1991 年に初めてイラクに対して使用した。

これら電磁波（EMP）を利用した兵器が、北朝鮮の核ミサイル脅威への対抗手段として、その有効性・実効性を発揮することが、日米共同作戦の上でも大いに期待される。

（2017 年 12 月 10 日）